

東日本大震災
オーストラリアで
リスクマネジメントを考える

オーストラリアで
頻発する自然災害

山火事に対する対処法を知る

東日本大震災
オーストラリアで
リスクマネジメントを考える



© FESA

オーストラリアにおいて最も被害の多い自然災害は、山火事です。西オーストラリア州では毎年何千もの山火事が発生し、建物やブッシュ地帯に大きな被害を与えています。政府機関の FESA (Fire & Emergency Services Authority) は、自然災害や海上事故、その他様々な事故に対応する統括機関です。中でも、火災に対応する部署では 800 人以上の職業消防士、約 2,000 人のボランティア消防士が役割を果たすべく在籍しています。2005 ～ 06 年の統計によると、西オーストラリア州では 1,350 件の建物火災と 6,566 件の山火事が発生し、FESA の消防士が対応しました。多発する山火事被害に対し、私たちは日頃から心構えや準備が必要です。FESA が推奨する、山火事に対する対処法を確認しましょう。

山火事のリスクを確認

まずは、自分の家族や家に山火事のリスクがあるか、チェックしましょう。以下の項目で 1 つでもあてはまるものがあつたら、山火事の被害を受ける可能性があります。

- ブッシュ、またはその近くに住んでいる。また、住んでいる地区が過去に山火事の被害を受けている。
- 自宅から 20m 以内に木や低木がある。
- 山火事避難のプランが、1 年以上前のものである。 など

実際にどのような準備ができるかを考えて、実行してみてください。山火事から自分や家族、資産を守るため、大変重要になります。

山火事が起こる前にできること

火から難を逃れるためには

- 長く伸びた芝生は短く刈り、落ち葉や枯れ枝などは常集めて、処分しておく。
- 2m 以下の背の低い木の枝は、短く揃えておく。
- 防火地帯を確保するために、近隣の家との境を見渡しよく、きれいにしておく。

安全な場所を作るには

- 自分の生活する家や建物から半径 20m 以内を安全範囲として、ゴミや落ち葉など燃える可能性のあるものを掃除し、処分しておく。
- 家と木の間は 2m 以上の距離を保つ。
- 可能な限り、庭やプールなどは山火事が起きる可能性がある方向とは別の方向に設置する。

隙間をうめる

- 隙間があると、火の粉や燃え残りが入り込み、更に火が広がる可能性があります。
- 天窓、エアコンの通気口、煙突などの隙間を塞ぐ。
 - 火の粉や燃え残りが入り込まないように、金属の仕切りを設置する。

逃げ道を確保しておく

- 庭を常に整備する。
- 燃料などの入ったものは、屋根のある別のところに移動させておく。
- LP ガスボンベは、火の影響を受けないくらい遠くに移動させる。

自分の資産を守る

- 今加入している保険で、建物や家財が十分カバーできているか確認する。見直しや再設定、また明記が必要な物件を今一度確認しておく。



© FESA



© FESA



© FESA

山火事が起こってしまったら

FESA では、自分の身の安全を一番に考えて安全な所に逃げることを勧めています。

安全なところに避難する

- 早めに逃げるができる場合は、食料などを持って避難する。
- ガスの元栓を閉じ、玄関、車庫、シェルターは全て閉める。
- どこへ、どのくらい避難するのか、知人に知らせておく。

避難が間に合わず山火事が目の前に迫ってきたら

- シェルターに身を隠し、火が通り過ぎるまで待つ。
- 万一、火の燃え移りを受けてしまったら、煙を吸わないようにして、既に燃えた地域に避難する。

幸運にも家が燃えず火が家の前を去ったら

- 屋根の隙間、床下、ベランダ、デッキ、屋外設置の家具などに燃え残りがいないか確認する。
- 周囲の燃え広がりが落ち着くまで、外出しない。
- ラジオやテレビ、インターネットで情報を確認する。

山火事が収まった後

ラジオやテレビ、インターネットで安全が確認され、自宅に帰ることができるようになって、まだ気を付ける必要があります。

- 家への出入りの際、防護服やマスクで身の安全を確保する。
- 感電する危険はないか確認する。
- ガス漏れはないか確認する (匂いやシューという音)。
- 下水などの漏れはないか確認する。
- まだ熱をもっている燃え残りはないか確認する。